

# フレibel 自傳 (第三回)

(マイニンゲン太公に宛てたる書翰)

倉橋惣三 譯

## 十九、幸福なる三相の生活

叔父の家に滞在してゐた間の私の生活は三相を持つて居りました。私の道德的存在を進展させ、

築き上げてくれた宗教生活、私が全力を傾注しました子供らしい遊戯よりなる外的生活、及び平和な叔父の家に於て靜かに行うた思想生活であります。

私は又この最後の思想生活にも等しく熱心に努めました。而して斯る氣分に裏切る軽い矛盾に就いて少しも疑惑を感じませんでした。

學友と同じく私は有耶無耶に日を送りました。見たり感たりするだけなら少しも干渉を受けませ

んでした。而かも尙私は私達の中の誰でもが甚し  
い不届な行爲をしたとがあつたとは思ひません。

二十、寛と嚴とに就て

茲に私は教育者として輕々に看過することの出來ない一事を記さなくてはならなくなりました。

私達は二人の先生に教へられて居りました。一人は街學的で嚴しうございました。も一人は主に私達のクラス、ティーチャーをして居られました。寛大で自由な人でありました。

嚴しい先生はクラスに少しも勢力がありませんでした。も一人の先生は私達と一緒に何でも好きなことはなさいました。而して若し先生が力を盡

さられたなら、又は若し先生が自分の力量を知つて居られたなら、先生は充分しつかりした善い教育をクラスに施されたかも知れません。

小さなスタッド・イルムの町には學校の監督をしてゐる二人がの牧師が居りました。

牧師長たる私の叔父は柔和で温厚で日常生活に於ても教會又は説教壇に於ける如く親切で人を感ぜさせる所がありました。も一人の牧師は厳し過ぎる程嚴格で私達を叱り付けたり命令したりしました。

嚴しい先生は私達を恐れ眼をして導きました。先生の言語のあるものは確かに聞くに堪えない位亂暴でありました。

私達を叱り付ける牧師の長い訓誡は大部分何物をも残さずに私達の頭の上を過ぎて行きました。

叔父は私の父と同じくその羊の群の牧者でありました。けれども叔父にはすべての人々に對する温和な愛寵的親切がありました。

私の父はその行爲の公正であるといふ確信に意を安うして居りました。父は熱心で厳しうございました。

二人とももう二十年も昔に死んで居ります、けれども二人がその教會の會衆に残して行つた精神は甚麼に違つてゐる事でせう。

教會の人々は峻嚴な支配から逃れてゐられるのを喜んで居ります。而して私の聞いたことが本當であつたとすれば、束縛されざる自由が人々の間に飛びまわつて居ります。

小さな町は漸次向上して輝かがやかしい未來に進んで行きます。而して事々物々は皆精神修養のため並びに正しい市民にふさはしい商業的活氣の爲めに資せられて居ります。

私はこの岐路に入つた記述を自ら承認します。何故ならば是等の事柄の結果は私自身の生活に於ける經驗と平行してゐるからであります。

斯うして私は堅信禮になるまで育つて行きました。長い休暇の間私が両親の家で過したのとはたつた數週間に過ぎません。

両親の家でも亦すべてのものが溫和に傾いて行き、而して家族的な膨脹的な活氣が家内を充たして行くやうに見えました。而して時々歸宅しては私は常にすべてのものに新しく刺戟されて非常に有益な効果を受けるのでありました。

先づ第一に私の目に附いたのは父の圖書室にあつた銅皿の彫刻です。その中でも特に世界歴史の繪を現したものであります。我國(獨逸)のアルファベットと他の國のアルファベットとを對照させてある表は私に驚くべき印象を與へました。それは私に我國の文字はフェニキア文字から結合され又引出されたものであるといふことを認知させてくれました。これは私が屢々聞いた又印刷されたのを見た外國の言語(私の兄弟は外國語を習つて居りました、而してその時分もまだ習つてゐたの

です)の關係に對して臆氣な概念を與へてくれました。殊にギリシャ語は私にはあまり目新しくなくなつて來ました。といふのは私はギリシャ文字を獨逸のアルファベットの中に認めることが出來たからであります。

併しながら以上のことはすべて私の生活の上に急激な影響を及ぼしたものではありません。是等のことはたゞ私の少年期の反映として後年に至つてそれ々の結果を私の上に齎したのであります。

#### 二十二、サミュエル、ローイルの指輪

この頃に又私は男子の讀むやうな本はすべて讀みました。サミュエル、ローイルの話が一番はつきりと頭に残つて居ります。私も亦私の手につまらないことをさせないやうに穿めてゐる指を壓してくれる指輪が欲しいと思ひました。而して私はこの話の指輪の若い所有主を憎みました。疍癖な行爲をしたいと思つた時に彼の指輪が彼の輪を強く壓した爲めに彼はその指輪を棄て、了つたのであ

ります。

### 二十三、就職問題

叔父さんがすべて取扱つて下さつた私の堅信禮及びそれに對する準備は終りました。

私は堅信禮から私の全生涯に於て最も感銘的な又最も遠大な影響を受けました。而して私のすべての生活は堅信禮に於てその聯結點と休息點とを發見しました。

私は今では就職の準備をしなくてはならなくなりました。而して問題は起りました。何の職業に従ひませうか？

私が大學で學ぶことが出来ないといふのはもう餘程以前から繼母の決心に依つて決められて居りました。何故ならば二人の兄さんは既に學事の研究に身を委ねて居りましたから父の財産に取つてはその上更らに多くの費用を出すことは尠からぬ負擔であると繼母は思ひました。

此の意向が既に私の教育の全課程に影響を及ぼ

し又それを制限して了つたのかも知れません。そして多分未來の實業的の目的に向つてホンの少しばかり狭い範圍が考へられてゐたのでせう。私は未來の人として尊敬されてゐなかつたのです。

多分この理由からでせう。私はホンの少ししか羅旬語を習はされませんでした。よく人々の言ふやうに名詞の變化さへ覺えれば充分だとなつてゐたのです。

自分の經驗から推して見ますに、たゞ未來の活動のある範圍とか生活のある地位とかばかりを考へるのは教育上甚だ有害であるやうに私には思へるのです。

骨の折れる舊式な教育（ある特殊の目的のために行はれる）は常に人間性の多くの高尚な能力を眠れるまゝに過させて了ひました。

### 二十四、職業の選擇

我國に於ける富豪や志慮深い両親がその息子のために選ぶ生涯は出納局と大藏省に職を保つこと

であります。

斯る職に對する志望者はこの生涯に入つて行く二つの方法と二つの出發點とを持つて居ります、出納局が大藏省の小官吏の一人の書記になるか左もなくば高給官吏の一人の給仕になるのです。

私の書いたり計算したりする智識は斯る職に就くに充分であると父は思つたらしいのです。而して斯る職は金錢上の心配をしくともよいやうな生活に導くばかりでなく、財産や好運にも導くものであるといふことを父はよく呑込んでおりました。私にこの生涯を選びました。けれども若い者を雇ひさうな大藏省の小官吏は私をまだ書記としては使ふことが出来ないし又使ひたくないといふ種々の理由を明かにしました。

私の記した斯る生涯に入つて行くための第二の仕方に對しては何だか私の心の中に反對するところのものがありました、私がその後經驗したことはない或物があつたのです。けれども當時それは

未來の職業に就かうとするのに這麼出發をするこ  
とを絶對的に私にさせませんでした。そして最も  
誘惑的な希望が私の前に提供されてゐたにも係ら  
ず私はさう思つたのでした。

父は私のことをよく且つ正直に話したのですが  
運わるく思ひ通りに行きませんでした。

後年私が學校の先生をしてゐる時のことでした  
思ひ掛けなくも私は父が私を住み込ませるつもり  
でゐた官吏の甥の二人を教育することになりました  
た。私がこの人々の叔父さんの衣物や靴にブラシ  
を掛け又彼のテーブルに旨い匂のするお皿を並べ  
るよりも是等の若い人々の心や頭を優良にして且  
つ有益な觀念を以て充たすことによつてこの一家  
のためにより大なる奉仕を爲し得たことを神に祈  
願します。

後者の場合に於ては私は多分外部的に氣安な幸  
福な生活を送ることが出来たかも知れません、と  
ころが私は今絶えず心配や困難と戰つて居りま

す。

この生涯は私には閉ぢられて了つたといへばそれで澤山でせう。第二の生涯は母によつて言出されました、けれども父が斷乎たる不賛成を唱へて私をそれから免れさせてくれました。

#### 二十五、農業家志望

私の自身の願望や嗜好が今や遂に議せらるゝやうになりました。私は真正正銘の農業家になりたうと思ひました。何故ならば私は山や野や森を愛しました。而して私は又この職業では何でもしつかり覚えるためには幾何學と測量術とに通曉してゐなくてはいけないといふ事も聞き及んで居りました。

折節思ひ出したやうに測量術を習ひますのでそれに就てもつと多く知りたいといふ希望が大層私を喜ばせました。而して私は林學、農業、幾何學、測量術の内孰れから始めるべきかを此とも意に介しませんでした。父は私のためにある地位を探さ

うと試みました、けれども農夫達はあまり多くの歩合を要求しました。

丁度この頃父は測量家として又評價者として令名ある一人の林務官と懇意になりました。

父と林務官とは直きに約束を決めました。而して私は林學や評價法や幾何學や測量術を習ふために二年間この人のところに使はれることになりました。

#### 二十六、林務官見習生

私が林務官の見習生となつたのは一七九七年の夏至の日で私が十五年と少しの時でありました。

私の家から林務官の家まで行くには二日かゝります。何故ならば林務官の居つた所は私達の國の内にはなかつたのです。

林務官は屢々彼の徹底的な多方面な智識の確證を私に與へました。けれども林務官は自分の智識特に實際上の經驗によつて得らるゝ智識を他人に移す術を知りませんでした。その上彼の信頼され

て居る材木流しの仕事は私の教育に要する定められた時刻に彼をして私を教へることを得ざらしめました。

この様子を明かに見て取るや否や私の心の活動は私の讀むに任せてある林學や幾何學の眞の良書を善用すべく促しました。

私は又近くの小さな町の醫者と知合になりました。その人は慰みとして博物學を調べて居りました。そしてこの友が私に植物學の本を貸してくれました。私はそれに依つて森に生えてゐる以外の植物に就ても併せ學びました。

林務官の留守中（その時は私は全く自分の氣儘になるのです）私は私の時間の大部分を私の住つてゐる附近の地圖を拵へることに捧げました。併し植物學は私の特別研究したものであります。

林務官の見習生として私の生活は四重生活でした。第一に以前よりも家庭的な且つ實際的な側の生活がありました、それから自然殊に森の自

然と共に過した生活、それから數學と外國語の勉強に費した研鑽の生活、それから最後に植物に就ての智識を得るために費された時間でありました。

#### 二十七、内省的青年

私の選んだ職業と私の地位の諸種の事情は私をしてあらゆる種類の人々と接觸せしめてくれました、けれどもそれにも係らず私の生活は依然として引込思案で獨りぼつちでありました。

私の敬虔な教會生活は今や敬虔なる自然との交通に變つて行きました。そして最後の半年間は私は全然植物を友として生活しました。植物は私が猶植物界の内の生活に就て何等の考もなかつたに係らず容易く私を自分達の方へ引寄せました。

植物の標本を集めたり乾燥したりすることは私が非常に熱心に行うた仕事でありました。

それから又この時代の私の生活はあらゆる方面に於て自己教養や自己啓發や道德的進歩に捧げられました。殊に私は自己觀察及び内省的慣習に耽

るのが好きでした。

二十八、芝居見物

私は私の内的生活の見地からして重要なもう一つの出来事をまだ記さねばなりません。

その時分私が住んでゐた所から一時間ばかり歩いて行く小さな田舎町がありました。

田舎廻りの役者の一隊が其處に到着しました。

而して町の公子の城内で芝居をしました。私は彼等の芝居を一度見て後は彼等の所演に殆ど毎回缺かさず見に行きました。

是等の芝居は私に深奥明確な印象を與へました。而して私は私の心霊が長く餓えてゐた滋養物を遂に得たのであると感ずるやうになりました。

斯くして得たる印象は時が経てば經つ程私の自己修養の上に多大の影響を及ぼしました。

芝居へ行つた度毎に暗の夜や星の夜の一時間の歸途の途次、狂言の意味をよく咀嚼するため芝居で聞いて來た科白を要點だけ繰返して見まし

た。

特にイフランドの「獵人」の芝居は甚麼に深く私を感動させたかといふことを私は覺えて居ります。そしてそれは如何に私を道德的決意を以て刺戟したことでせう。私はこの決意を星の光の下で私の心に深く鑢りつけました。

私の芝居の興味は私に役者、殊に私の注意を惹いてゐた眞摯な若い男と知合になりたがらせました。而して私はその男と役者といふ職業に就て話を湧立たせることの出来る團隊の一員であることに喜んでやりました。而して多分私も斯る團隊の一員になりたいといふ希望を現したこと、思ひます。

すると正直なその人は華美な虚偽多き不幸としての役者の職業を説明してくれました。而して彼は仕方がなく役者をしてゐることや、彼は間もなく役者をやめるといふことなどを殘らず私に話し



ました。私はこれに依つて更らに原因を結果から分離し、内的の事物を外的の事物から引離すべきことを知りました。

私の芝居へ行くといふことは最も不快な経験を私の上に齎しました。何故ならば私が少しも隠さずに芝居へ行くことを父に話した時に父はひどく私を叱責したからであります。

父は私の行爲を最も嚴重な叱責に相當すべきものと思つたのですが、私の意見はこれとは全然相反して居りました。何故ならば私は芝居へ行くことによつて受ける利益を教會に出席することによつて受けるものと同様に思つてゐたからです。而して父にも斯る意味のことを話したのです。後年に於ても屢々さうだつたのでしたが、この時も父と私をの仲裁者となつたのは私の最長兄でありました。

二十九、林務官の苦情

一七九九年の夏至の日に私の見習生としての生

涯は終りました。

私の實際上の智識を今や自分のために役立てることの出来る林務官はもう一年私を引止めたいと望みました。けれども私はその頃にはもつと高尚な意見を抱いて居りました。而して私は私の目的から控えてゐることは出来ませんでした。

私の見習生の生涯が終つた時、私は林務官の手許を離れて父の家へ歸つて行きました。

私の主人は私に對してなすべき事をしなかつたといふことをよく心得て居りました。而して多分自分に對しても恥かしい意識を持ちながら而して又私に充分に満足したといふ感謝状をくれたにも係らず、彼は私に對して甚だ卑劣な行爲をしました。

彼は私の人目に立たぬ研鑽、例へば私がよく理解することの出来たある基本的の數字書の熱心な研究などに就て何も知りませんでした。その他私がもう一年彼の許に止まらうとしなかつたとい

ふことが彼に喜ばれなかつたのです。それ故に彼は私の父に手紙を送りました。彼はその手紙で私の行爲に就て痛く苦情を言ひました。而して私が職業に就て何等の智識をも得なかつたといふ責を全然私に嫁して了ひました。

この手紙は私が家に歸り着く前に既に到着して居りました。而して父はこの手紙を私の最長兄の詐へ送りました。最長兄は私が歸宅の途次通り過ぎる村の牧師をして居つたのであります。

私が兄の家へ着くとすぐ兄はこの私を罪する手紙の内容を私に傳へてくれました。

私は私の主人の道心の鈍い振舞を暴露したり又私の自習したことなどを話して私自身の證明あかしを立てました。

私はそれから私の主人に返事を書いて送りました。彼の求罰のすべてを明瞭に論駁すると共に一面に於て私に對する彼の行爲を明かにしてやりました。而してこれを以て私は父や兄の意を充たし

ました。けれども兄はそんな不法な仕打を長い間不平も言はずに受けてゐたことに就て私を叱りました。この事に就ては私は簡単な答辯をなしました。それは父が私が見習生となつて行く前に何か不平を言つて歸つて來ても聞き屈けないのみならず、不都合なことであると思ふぞよと私に言つたからであります。

父の厳しさ及び斯る場合の父の思わくを知つてゐる兄は何も言ひませんでした。けれども母は林務官の言分の中に私に對して抱いてゐる自分の意見の確證を見出しました。

林務官は若し私が何事をか成し得るとすればどんな人でももつと尠い勞力で同じやうな好運を贏るであらうと言ひました。而して母は心から此の説に同意しました。